

憲法しんぶん 速報版

発行 憲法改悪阻止各界連絡会議 (憲法会議)

Eメール mail@kenpoukaigi.gr.jp TEL03-3261-9007
ホームページ http://www.kenpoukaigi.gr.jp FAX03-3261-5453

2025年10月9日(木)

NO. 1620号

本号3頁

共闘発展で自民党政治にさよならを!

埼玉憲法会議 秋の運動交流会に満席の90人、決意あらたに

9月30日、埼玉教育会館で、25年秋の憲法運動交流会が開催され、会場満員の90人が熱心に参議院選後の情勢を学び、秋の運動について交流と意思統一を図りました。

戦争する国づくりが日常に

初めに全国革新懇事務室長の小田川義和さんが「参議院選挙後の情勢と私たちの運動課題」のテーマで講演。小田川さんは、「戦争法（安保法制）」が強行されて10年になるが、戦争体制づくりが日常生活にまでおよび、大軍拡が進められている危険性を指摘しました。同時に日本を本格的な「戦争する国」にするために憲法改悪を企んできたが、私たちの運動でそれを許さなかったとこの間の運動を評価しました。

参議院選挙の結果、与党を過半数割れに追い込んだが、政治の反動化が強まり、「スパイ防止法」をめぐる新たな動きが出ていると危険性も訴えました。

暮らし、平和、民主主義の危機

今、長年続いた自民党政治の下で、暮らし、平和、民主主義が脅かされ国民の不満が大きくなっている。そのため、自民党政治そのものを終わらせる必要がある。

個別要求から共闘の発展を!

今私たちに求められているのは、個別の要求共闘を、「自民党政治さよならの大運動につなげてことが大切で、めざすのは日本国憲法実現の政治である」と結びました。

元気にの出る運動交流

運動交流では特別報告4人、フロア発言1人がそれぞれ、参加者にとっても元気を与える発言をしました。

【東松山九条の会・石井さん】

「九条の碑を全国各地に設置」を提唱している伊藤千尋さんに3回も来ていただき、地元の著名な人たちからの支援を受けながら10回の会合を持ち、募金を集め、東松山市内に「九条の碑」が建立されることになりました。その除幕式が10月12日に行われます。

【埼玉土建・池田さん】

埼玉土建の元気の源は学習で、役員は様々な段階の会議で、毎月3回の情勢学習をしている。組合員は6万人で地域に分会が300、さらに10世帯くらいを単位に班があり、全組合員に憲法の大切さを伝えられるように努力しています。

【オールみぬまの会・原富さん】

「安保法制」が強行された2015年から「市民と野党の共闘」を重視し、この間100回の会議を持ち、毎月「19日行動」に取り組み、「安保3文書」や「マイナ保険証」など学習会を重ねてきた。会議や行動には、毎回、立憲民主党、日本共産党の地方議員、社民党の役員も参加し、情勢論議をしっかりと行い、時には交流を持ち、仲良く活動してきています。

【自由法曹団・青木さん】

埼玉憲法会議の事務局長でもある青木さんは、スパイ防止法の危険性について、「軍事情報などを外国に漏らしてはいけない」と言われているが、なにが軍事機密になるのか不明確で、冤罪が多発する恐れがある。マスメディアを委縮させ、権力者に都合の悪いことを国民に知らせなくなる。1985年、中曽根内閣の時に初めて国会に出されたが、国民の運動で4回阻止してききました。

【平和委員会・二橋さん】

スパイ防止法は自分に関係ないと思う人が多いと思うが、一般市民にも襲い掛かることを早く知らせるため、分かりやすいリーフを準備している。

当面の行動提起

- 各団体、地域で網の目のように憲法学習会の開催を
- スパイ防止法の危険性を訴える
- 「9の日宣伝」「19日行動」など積極的な街頭宣伝を
- 11月9日～19日の期間、100か所宣伝に挑戦を
- オール埼玉総決起集会、12月5日、埼玉会館大ホールに参加を



高市総裁の人事 党改革に逆行、古い自民党そのものまま

自民党の高市早苗総裁が新しい執行部を発足させました。党内に唯一残る派閥、麻生派の麻生太郎会長を副総裁に充て、党四役のうち2人を同派から起用。裏金事件で政策秘書の有罪が確定した萩生田光一氏を幹事長代行に登用しました。まさに派閥・裏金の象徴の起用です。

高市氏は役員人事を了承した臨時総務会で「今の暮らし、未来への不安を何とか希望と夢に変えたい」と述べました。自民党は参院選大敗を受けて「解党的出直し」を掲げたが、執行部人事を見る限り、古い自民党が残ったままです。

派閥政治の復活。鈴木俊一幹事長、有村治子総務会長は麻生派所属で総裁選で高市氏支持の号令を出した麻生氏の意向を色濃く映す顔触れにほかなりません。派閥の裏金事件を機に、派閥解消を打ち出して「人事から完全に決別する」とした党改革への逆行は明らかです。

党内基盤の弱い高市氏は政権運営を麻生氏に頼るほかないのでしょうか。長老政治家による「傀儡（かいらい）」「二重権力」に堕さないか。鈴木氏は麻生氏の義弟でもあり、党の私物化との批判も免れません。

露骨な総裁選の論功行賞。麻生、鈴木、有村、萩生田各氏と古屋圭司選対委員長は高市氏を支援し、第1回投票で4位だった小林鷹之政調会長も決選投票で高市氏を支持しました。小泉進次郎農相を推した議員は党の主要ポストから遠ざけられ、高市氏が唱える「全員参加」には程遠い状況です。

萩生田氏は昨年の衆院選で有権者の審判を受けたとはいえ、裏金事件を巡り政策秘書が今年8月に政治資金規正法違反（虚偽記入）の罪で略式起訴され、有罪が確定しました。高市氏は裏金事件を「決着済み」とするが、国民の怒りを軽視した要職起用は容認できません。

党役員も多くは高市氏と同じく右寄りの政治信条で知られ、首相の靖国神社参拝や外国人対策の厳格化を懸念する公明党との協力関係を維持できるのかは不透明だ。「政治とカネ」を巡る溝も埋まっていなません。自公関係が揺らげば、政権安定に向けた連立の枠組み拡大協議にも影響が出かねません。

与党が衆参両院で過半数割れした状況では、野党の賛同がなければ法律も予算も成立せず、国民が切実に求める物価対策を講じることもできません。中小政党も影響力を持つ多党時代の指導者には、主張や個性を抑えてでも幅広い協力を取り付ける覚悟が必要ではないでしょうか。

課題山積みの自民・高市新総裁 公明との連立に暗雲？

保守的言動に海外では警戒も

高市氏には、『連立』『人事』『外交』といった様々な課題があります。今後の焦点は連立の枠組みですが、公明党幹部が連立を離脱する可能性を示唆しています。

高市新総裁は連立について、「自公連立の基本中の基本。（連立拡大について）憲法改正や外交・安全保障政策など、基本的に考え方の合う政党としっかり議論したい」と話しました。

総裁が決定した約2時間後、高市新総裁は公明党本部にあいさつに行きました。そこで公明党の斉藤代表は、「連立協議を始めるに際し、懸念事項・関心を持っていることについてお話をさせて

いただいた」と話しました。懸念事項とは、『政治とカネ』『歴史認識と靖国』『外国人共生問題』の3つの懸念です。また、自公連立について「懸念解消なくして連立はない」としました。

公明の連立離脱 現実味も

公明党の連立離脱の可能性についてです。マスコミは、公明幹部から「自公連立をひと休みするかもしれない」との発言があったと報じています。また、「公明党内から『自民党といつまで付き合うんだ』という声が噴出している。公明党が連立から離脱して『自民党の単独政権』になる可能性がある」とも。

維新 連立協議にも影響

維新との連立協議にも影響が出そうです。日本維新の会の吉村代表は連立について、「正式な打診があれば協議するのは当然だ」と話しています。一方、公明党の斉藤代表は、「維新の『副首都構想』を前提にした議論は非常に疑問点を持っている」と高市新総裁に伝えました。

維新と公明には確執もあります。2024年の衆院選の際、公明党は「常勝関西」と呼ばれていた大阪で、4選挙区すべてで維新に敗れました。

国民民主は？

一方、国民民主党の玉木代表は『連立』について、「年収の壁の問題であったり、我々がいつていたことについては、かなり尊重する趣旨の発言もされていた。政策協議の要請があれば向き合っていきたい」と話しています。

高市新総裁の側近は、「連立の相手は国民民主党」と断言。高市新総裁が主張する『外国人政策の厳格化』や『スパイ防止法制定』『憲法改正』は国民民主の主張と重なりと指摘します。

世論調査共同通信、JNN

総裁選での派閥や旧派閥の影響力「感じた」が81.1% 裏金議員の起用反対77%

高市氏に「期待する」との回答は68.4%。派閥裏金事件に関与した議員の党役員や閣僚などへの要職起用に「反対」は77.5%に上りました。総裁選で派閥や旧派閥の影響力を感じたかを尋ねると「ある程度」と合わせて「感じた」が81.1%に達しました。

衆参両院で過半数を持たない与党がどの野党に協力を求めるのが良いかを聞くと、国民民主党が34.4%で最多。日本維新の会28.0%、立憲民主党26.9%、参政党17.2%と続いた。

最も望ましい政権枠組みは、自民、公明両党に一部野党が加わる政権が40.0%でトップ。次が政界再編による新たな枠組みの31.9%でした。

高市氏の総裁就任による自民の信頼回復は「できる」45.5%、「できない」48.5%で拮抗した。高市氏が首相に就けば史上初となる女性首相の誕生は「望ましい」が「どちらかといえば」を合わせて86.5%でした。

高市氏が首相に就任した場合、日中関係が「悪くなる」としたのは53.6%。また、史上初の女性首相誕生について「望ましい」との回答は「どちらかといえば」と合わせて86.5%でした。

衆参両院の少数与党がどの野党に協力を求めるのが良いか聞いたところ、国民民主党が34.4%で最多でした。日本維新の会28.0%、立憲民主党26.9%と続きました。

今回の自民党総裁選で派閥や旧派閥の影響力を感じたかを尋ねると「ある程度」と合わせて「感じた」が81.1%に達しました。そして、自民党の派閥裏金事件に関与した議員の要職起用について、反対が77.5%に上りました。

高市新総裁に取り組んで欲しい政策について、最も多かったのが「物価高対策」、続いて「景気対策」、次に「外国人に関する政策」でした。

お知らせ

「**参政党の新日本憲法「構想案」を斬る**」は、高市氏が自民党総裁に選出れたことにより、安倍政治の継承・憲法改正の動きが強まると思われまます。そのため、その動きを紹介することに、当面力を入れたいと思いますので、しばらく「参政党の新日本憲法「構想案」を斬る」シリーズはお休みします。